

# 多文化共生社会の実現を支える組織力・対話力・実行力の育成

組織力：課題解決のために、人・知識・技術を構成・組織し、物事を動かす力

対話力：課題解決のために関わる人・組織等と対話し、合意形成を為す力

実行力：課題解決のために実際にアクションを起こし、解決に導く力

東京学芸大学附属国際中等教育学校

TOKYO GAKUGEI Univ. International Secondary School

## 国際教養の複合的課題研究

<大テーマと研究課題例>

- リスク(例:メディアによる世界の分断は何をもたらすか)
- 葛藤と軋轢(例:紛争解決の未来とは)
- 教育(例:IT環境の整備と教育は、地域の子どもにどのような未来を与えるか)

SGHAct(学校外活動の単位認定)

基礎教養としての教科学習と多教科連携

海外ワークキャンプにおける現地高校生との共同探究・国内外調査フィールドワーク・プレゼンテーション・ディスカッション

## 国際教養の体系化 課題研究の概念による焦点化

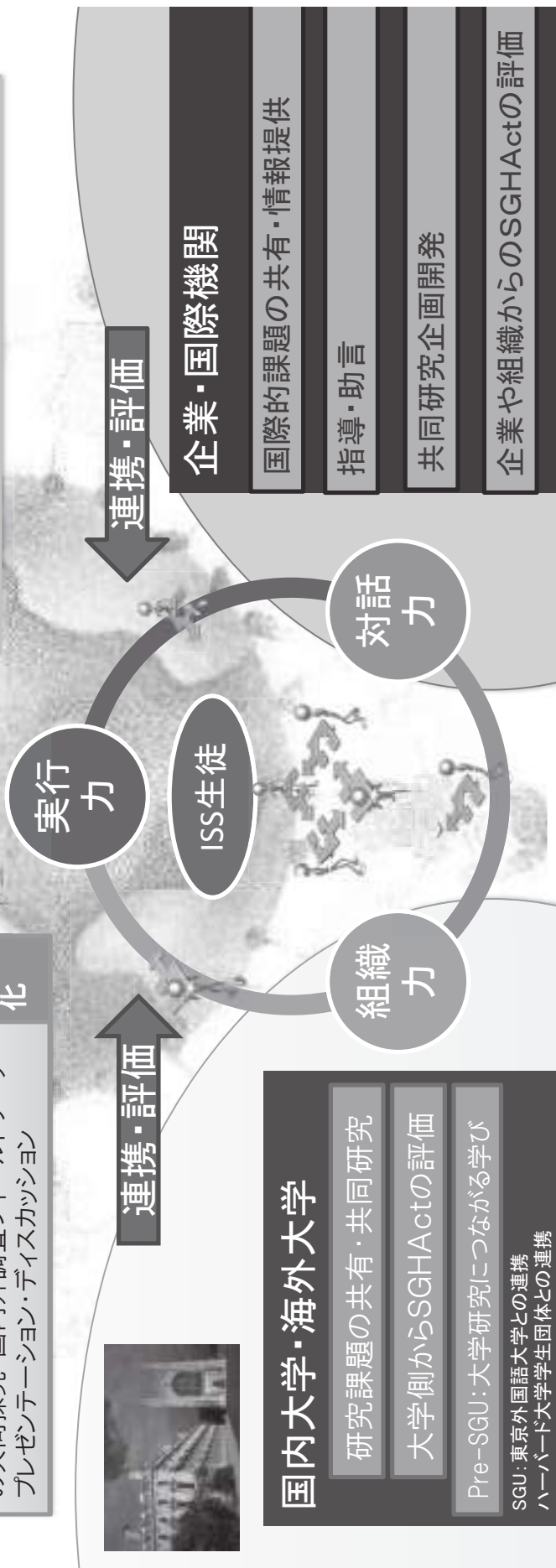
### 課題解決

結果の還元による  
高度で多機能を持つ  
チームへの成長

### Post Active Learningの開発

### 生徒主体の研究体制

- ・ チームSGH結成
- ・ 生徒による課題研究テーマ・企画提案・グローバルカフェ運営
- ・ 生徒自身が大学・研究室・企業・組織と交渉にあたり、各組織と新たなチームを組む
- ・ 生徒発案の授業A&S(Act&Solve)の導入
- ・ 学校外での主体的な活動推進(SGHActとして単位認定)



添付資料 2019年度(令和元年度)教育課程表

添付資料 2019年度(令和元年度)教育課程表												
国際バカロレアMYP実施(1年~4年)					国際バカロレアDLDP実施							
SSH												
SGH Jr.					SGH							
前期課程					後期課程							
1年		2年		3年		4年		5年		6年		
1	国語		国語		国語		国語総合		現代文B		体育	
2	国語		国語		国語		国語総合		現代文B		体育	
3	国語		国語		国語		国語総合		現代文B		体育	
4	国語		国語		国語		国語総合		現代文B		体育	
5	社会		社会		社会		地理A		世界史A or 世界史A(IM)		保健	
6	社会		社会		社会		地理A		世界史A or 世界史A(IM)		家庭基礎	
7	社会		社会		社会		現代社会or 現代社会(IM)		日本史A		Japanese A : Literature HL	
8	社会		社会		社会		現代社会or 現代社会(IM)		日本史A		Japanese A : Literature HL	
9	数学1		数学2		数学3		SS数学 I		SS数学 II		English A : Literature HL	
10	数学1		数学2		数学3		SS数学 I		SS数学 II		English A : Literature HL	
11	数学1		数学2		数学3		SS数学 I		SS数学 II		English A : Literature HL	
12	理科	化学基礎	理科	物理基礎	理科	物理基礎	SS数学A or SS数学A(IM)	SS数学A or SS数学A(IM)	SS数学B or IM数学B or 芸術	公民・倫理(2) 政治・経済(2) 政治・経済イマージョン(2)	English A Lang & Lit HL / English B HL	
13		生物基礎		生物基礎		SS数学B or IM数学B or 芸術					English A Lang & Lit HL / English B HL	
14		地学基礎		地学基礎		SS生物基礎					English A Lang & Lit HL / English B HL	
15	音楽		音楽		音楽		SS物理基礎		SS物理基礎		History HL	
16	音楽		音楽		音楽		SS物理基礎		SS物理基礎		History HL	
17	美術		美術		美術		SS地学基礎 or 科学と人間生活(IM)		SS化学基礎		History HL	
18	美術		美術		美術		SS地学基礎 or 科学と人間生活(IM)		SS化学基礎		History HL	
19	保健体育		保健体育		保健体育		SS地学基礎 or 科学と人間生活(IM)		SS化学基礎		Mathematics SL	
20	保健体育		保健体育		保健体育		SS地学基礎 or 科学と人間生活(IM)		SS化学基礎		Mathematics SL	
21	技術・家庭		技術・家庭		技術・家庭		SS地学基礎 or 科学と人間生活(IM)		SS化学基礎		Mathematics SL	
22	技術・家庭		技術・家庭		技術・家庭		SS地学基礎 or 科学と人間生活(IM)		SS化学基礎		Mathematics SL	
23	技術・家庭		技術・家庭		技術・家庭		SS地学基礎 or 科学と人間生活(IM)		SS化学基礎		Chemistry SL	
24	英語		英語		英語		C英語 I		C英語 II		Chemistry SL	
25	英語		英語		英語		C英語 I		C英語 II		Chemistry SL	
26	英語		英語		英語		C英語 I		C英語 II		Visual Arts SL	
27	英語		英語		英語		C英語 I		C英語 II		Visual Arts SL	
28	LE1	LE2		LE3	国際3	情報の科学	国際3	情報の科学	英語表現 I	英語表現 I	Visual arts SL	
29	国際1情報	国際2		国際3	国際3 IM	情報の科学	国際3	情報の科学	英語表現 I	英語表現 I	Visual arts SL	
30	国際1理数探究	国際2		国際3	国際3 IM	情報の科学	国際3	情報の科学	英語表現 I	英語表現 I	Visual arts SL	
31	国際1理数探究	国際2		国際3	国際3 IM	情報の科学	国際3	情報の科学	英語表現 I	英語表現 I	Visual arts SL	
31	道徳	道徳		道徳	国際4 PP	国際5(課題研究 I)*総合的な学習の時間	国際4 PP	国際5(課題研究 I)*総合的な学習の時間	国際6(課題研究 II)*総合的な学習の時間	国際6(課題研究 II)*総合的な学習の時間	TOK(*総合的な学習の時間)	
32	HR	HR		HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	

- ①国際教養とは、学習指導要領で定められている「総合的な学習の時間」「学級活動(HR)」および「道徳」(前期課程)を再編した領域。
- ②国際教養では、「人間理解」「国際理解」「SS理数探究」の3つの柱を情報・知識・の入り口として設け、教科教育とは違った視点で様々なテーマ学習を行う。校外学習やSchool Festival等の活動も含む。
- ③4年次に集中講座としてシーズンスポーツ(1単位)を選択することができる。
- ④6年次国際A「国際協力と社会貢献」・国際B「ファンリレーション実践」は平成27年度から開講された講座。  
国際Aは他に「憲法と人権」・国際Bは「文学探究」「College Prep」「応用数学」を開講している。

## ISS チャレンジ 研究実施計画書

研究テーマ (研究課題)	研究 No.		
研究の種類	どちらかに○を印すること 開発・プロジェクト型研究 / 基礎研究		
研究者	代表者	年 組 番	mail
	年 組 番	年 組 番	年 組 番
講座担当教員 (研究指導教員)	後期課程で課題研究の講座担当の先生がメンターの場合はその先生の名前を書く。 課題研究の講座担当以外の先生がメンターの場合は、あらかじめ指導の同意を得た上で、その先生の名前を書く。同意が得られていないのに、勝手に名前を記入しないこと。		
研究の動機・背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜこの研究をしようと思いましたが？</li> <li>・先行研究では、どこまで研究されていますか？ ※先行研究の講座とは、先行研究とは、その言葉通り自分たちの行おうとする研究分野において先に行われている「研究」のこと。先行研究を調査するのは、自分の行おうとする研究が、その分野の中においてどの位置にあるのかを知り、それを把握することが目的である。自分たちが先の実験していることや自分たちが考えていることを書くところではありません。</li> <li>例えば自分たちのテーマが「消滅危機言語の保護政策の提案について」だった場合 先行研究 (例) 「グローバル化と『消滅の危機に瀕した言語』」(松原 好次・湘南国語女子短期大学紀要 10・2008年2月1日) この論文で松原さんという研究者がどのような言説を提示しているかを確認し、その言説の内容と自分たちの課題の共通点と相違点を確認する作業が必要です。 【引用参考文献等】</li> </ul>		
研究課題と目的 および 想定されるゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この研究では、何を目的として何を明らかにしようとしていますか？</li> <li>・その目的を達成することに、どのような学術的価値・社会的価値がありますか？ (ゴールが想定される場合は具体的なゴールを書いてください)</li> </ul>		
研究の方法・内容と 年間計画 (例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を達成するために、具体的に何についてどのような方法で研究を行いますか？</li> <li>・それをどのような日程で実施していきますか？</li> </ul> <p style="text-align: right;">【4月～6月】</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先行研究の整理。課題の明確化 以下の先行研究を参照し、○○の研究に関する現在の課題を明確にし、本研究の目的を設定した。 ・天川あす花, 稲葉千尋, 大地里奈, 高木優衣, 富澤郁美(2015)「海上食糧生産」, 理数探究研究論文集, 東京学芸大学附属国際中等教育学校, pp.57-68 【7月～8月】</li> <li>● △△の実験、分析 .....</li> </ul> <p>※継続研究については今までの研究で何がどこまで明らかになっているのか、また、そこからさらに何を研究するのか、過去の研究との違いはどこにあるのかなどを明確にすること。</p>
研究倫理申請の 必要性	<p>課題研究ガイドブックの p.15 を読み、計画予定の研究方法が下記の研究倫理申請の項目にあてはまる場合は( )内に○をつけてください。</p> <p>ヒトを対象とする研究</p> <p>( )A: 身体活動に関わる研究</p> <p>( )B: 心理学的、教育的、および意見に関する研究</p> <p>( )C: 非識別/匿名化されていないデータの記録を閲覧する研究</p> <p>( ) : 脊椎動物の取り扱いが必要となる研究</p> <p>ここでいずれかの項目に○が付けたら研究は、研究を実施する前にメンターの教員と相談して、チェックシートの記入・提出もしくは研究倫理申請を行うことになります。</p> <p>・この研究方法は適切ですか？そのように判断できる根拠は何ですか？ (現時点までの準備状況や先行研究などをあげて説明するとよいでしょう)</p>
研究方法の妥当性 および 計画の実行性	<p>SSH</p> <p>SGH</p> <p>(当てはまるものに○をつけてください。両方に当てはまると思う場合も両方でもかまいません)</p> <p>・どのような方にアポイントメントをとってアドバイザーをもらいたいのですか？ (所属や氏名が明確であれば詳細も)</p> <p>・それはなぜですか？</p>
位置付け	<p>SSH</p> <p>SGH</p>
必要となる 人的支援	<p>必要となる 人的支援</p>

※以下の項目は、該当する研究のみ記入してください。

リスク (risk)	葛藤と軋轢 (dilemma・conflict)	教育 (education)
SGHの関連概念 (SGHに位置付けた人のみ)	※ (SGHに位置付けた人のみ) いずれかに○をつけてください。また、研究課題との関連性について簡単に説明して下さい。	
必要となる物的支援	※実験や研究の実施に必要な実験装置 (備品) や消耗品等を簡潔書きで上げて下さい。(ISS チャレンジの研究支援対象となった場合は、価格概算など詳しい内容を記載する研究支援品要求リストを提出します。)	

※ 誰が読んでわかるように書くこと。必要に応じて、写真や図等を貼り付けても良い。

※ 「研究 No.」は記入する必要はありません。

## 2019年度ISSチャレンジ SGH部門 研究実施計画書 評価シート

No. .... 研究代表者: ..... 評価者氏名: .....

研究実施計画書を以下のルーブリックに基づいて評価してください。

【観点A: 研究の目的】 評価対象: 「研究課題」「研究の動機・背景」「研究の目的」

0	以下のどれにもあてはまらない。
1	研究テーマはあるが、研究課題として設定されていない・研究の目的が不明確なから示されている。
2	研究テーマはあるが研究課題として十分なレベルまでには興味・整理されていない/焦点化されていない 研究の目的が明確に示されている。
3	研究テーマが研究課題として吟味され、適切に設定されている 研究の動機や背景に基づいて、研究の目的が明確に示されている。

【観点B: 先行研究・先行実践の確認】 評価対象: 「研究の動機・背景」「研究の方法・内容と年間計画」

0	以下のどれにもあてはまらない。
1	先行研究・先行実践を踏まえている (踏まえていない) が、情報源の信頼性に欠けるものが多くみられる。
2	適切な先行研究・先行実践を踏まえている (踏まえていない)。
3	適切な先行研究・先行実践を十分に踏まえており (踏まえていない) 自己の研究の位置付けを明確にしている (明確にできていない)。

【観点C: 研究方法の妥当性】 評価対象: 「研究方法の妥当性および計画の実行性」

0	以下のどれにもあてはまらない。
1	研究の目的を達成するための方法が妥当であることを説明しようとしているが、非論理的である。 または方法が不適切であると判断することができる。このままだと調べ学習で終始してしまふ可能性が大きい。
2	研究の目的を達成するための方法が妥当であることを説明しようとしているが、その論理の飛躍があったり、論理を追うことが困難であったりする所が見られる。
3	研究の目的を達成するための方法が妥当であることを論理的に説明している。

【観点D: 研究計画の確かさ】 評価対象: 「研究計画の妥当性および計画の実行性」

0	以下のどれにもあてはまらない。
1	研究計画があいまいである、あるいは無理な計画が多く研究目的を達成できる可能性が低い研究であると判断することができる。
2	研究計画が概ね明確に立てられている。研究目的を達成できる可能性がある研究であると判断することができる。
3	研究計画が非常に綿密であり、すでに先行研究のレビューなどが行われており、研究遂行力が高いと判断できる。研究目的を達成できる可能性が非常に高い研究であると判断することができる。

【観点E: 研究内容の妥当性】 評価対象: 「研究内容の妥当性・目的との整合性」

開発・プロジェクト研究	
0	以下のどれにもあてはまらない。 基礎研究 以下のどれにもあてはまらない。
1	目的との一致があまり見られないが、狭い範囲の問題を扱う 判断に基づいて研究内容に陥る可能性がある。 目的との一致があまり見られないが、非常に主観的・感情的な判断に基づいて研究内容に陥る可能性がある。
2	概ね目的と一致しており、社会問題の解決に関連する事柄を扱っていることと判断することができる。 概ね目的と一致しており、社会科学・人文科学・自然科学分野の知見に対して独自の見解を提示することができる可能性がある。
3	目的と一致しており、グローバルな社会問題の解決に関連する事柄を扱っていることと判断することができる。 目的と一致しており、社会科学・人文科学・自然科学分野の知見に対して影響力のある独自の見解を提示することができる可能性がある。

【評価記入欄】

観点A	観点B	観点C	観点D	観点E

締め切り：6月26日（水） どうかよろしくお願いたします。

## ISS チャレンジ SGH 部門 研究実施計画書 自己評価シート



No. .... 研究発表者： .....

自己の研究実施計画書を以下のルーブリックに従って評価し、振り返りなさい。

【観点 A：研究の目的】 評価対象：「研究課題」「研究の動機・背景」「研究の目的」

0	以下のどれにもあてはまらない。
1	研究テーマはあるが、研究課題として設定されていない。研究の目的が不明確ながら示されている。
2	研究テーマはあるが研究課題として十分なレベルまでに印字味・整理されていない/焦点化されていない 研究の目的が明確に示されている。
3	研究テーマが研究課題として吟味され、適切に設定されている 研究の動機や背景に基づいて、研究の目的が明確に示されている。

【観点 B：先行研究、先行実践の確認】 評価対象：「研究の動機・背景」「研究の方法・内容と年間計画」

0	以下のどれにもあてはまらない。
1	先行研究・先行実践を踏まえている（踏まえようとしている）が、情報源の信頼性に欠けるものが多くみられる。
2	適切な先行研究・先行実践を踏まえている（踏まえようとしている）。
3	適切な先行研究・先行実践を十分に踏まえており（踏まえようとしており） 自己の研究の位置付けを明確にしている（明確にすることができようである）。

【観点 C：研究方法の妥当性】 評価対象：「研究方法の妥当性および計画の実行性」

0	以下のどれにもあてはまらない。
1	研究の目的を達成するための方法が妥当であることを説明しようとしているが、非論理的である。 または方法が不適切であると判断することができる。このままだと調べ学習で終わってしまう可能性がある。
2	研究の目的を達成するための方法が妥当であることを説明しようとしているが、その論理に飛躍があったり、 論理を追うことが困難であったりする所が見られる。
3	研究の目的を達成するための方法が妥当であることを論理的に説明している。

【観点 D：研究計画の確かさ】 評価対象：「研究計画の妥当性および計画の実行性」

0	以下のどれにもあてはまらない。
1	研究計画があいまいである、あるいは無理な計画が多く研究目的を達成できる可能性が低い研究であると判断することができる。
2	研究計画が概ね明確に立てられている。研究目的を達成できる可能性がある研究であると判断することができる。 研究計画が非常に綿密であり、すでに先行研究のレビューなどが行われており、研究遂行力が高いと判断できる。研究目的を達成できる可能性が非常に高い研究であると判断することができる。

【観点 E：研究内容の妥当性】 評価対象：「研究内容の妥当性・目的との整合性」

		基礎研究
0	以下のどれにもあてはまらない。	以下のどれにもあてはまらない。
1	目的の一致があまり見られないか、狭い範囲の問題を扱う 研究にとまどまっていると判断することができる。	目的の一致があまり見られないか、非常に主観的・感情的な判断に基づく研究内容に陥る可能性がある。
2	概ね目的と一致しており、社会問題の解決に関連する事柄を扱っていることがわかる。	概ね目的と一致しており、社会科学・人文科学・自然科学分野の知見に対して独自の見解を提示することができる可能性がある。
3	目的と一致しており、グローバルな社会問題の解決に関連する事柄を扱っていることがわかる。	目的と一致しており、社会科学・人文科学・自然科学分野の知見に対して独自の見解を提示することができる可能性がある。



### 研究支援申請書

SGH No.	研究代表者	研究テーマ
---------	-------	-------

**【人的支援】**

優先順位	調査先（所属先や部署まで具体的に記入）	内容（どのようなことを調査したいのか・どのような助言をもらいたいのか）
1		

**【その他の支援】** 可能な限り、具体的に記入すること

※記入したものが全て支援の対象になるとは限りません。SGH 委員会で検討し、支援可能であると判断したものについて支援が行われます。

【評価記入欄】

観点A	観点B	観点C	観点D	観点E

【改善すべき点】 ※研究活動を進めていく上で自分たちで改善すべき点と考えた点を記入してください。

提出締切：5月29日（水） 提出先：SGH 委員会



2019年度 ISS チャレンジ (SGH 部門) 研究経過報告書

SGH No.			
研究テーマ			
研究代表者	年 組	年 組	年 組
メンバー	年 組	年 組	年 組
	年 組	年 組	年 組
	年 組	年 組	年 組

1. 研究経過

①研究計画書を提出後、これまで行ってきた研究活動の内容を時系列で整理し記入してください。

日付	研究活動の内容

(行が足りない場合は、挿入してください)

②これまでに研究テーマを変更した場合には、変更した理由を詳細に記入してください。

変更前の研究テーマ

変更理由:

③これまでの研究活動において明らかになったことは何ですか。研究目的を示した上で、具体的に記入してください。字数制限は設けていませんので、この項目は十分に書くこと。調べて分かったこと、文献調査をしてわかったことなどもよい。

研究目的:

2. 研究経過の分析

1 をもとに、現在の研究状況について分析してください。

①現在の研究状況として、もともと当てはまるものに○をつけてください。

おおむね当初の計画通りに研究が進んでいる	
当初計画とは異なる部分はあるが、研究は進んでいる	
研究があまり進んでいない	

②上記①のように判断した理由を具体的に述べてください。

③これまでの研究活動の中で、設定した研究課題に対してどのような考察ができましたか (研究課題に対する考え・理解はどのように深まりましたか)。研究計画時に選択した大テーマ (リスク・葛藤と軋轢・教育) との関連もふまえながら記入してください。

選択している大テーマ

④今後、研究を継続させていくにあたって、困っていることはありませんか。ある場合は、できるだけ具体的に記入してください。

研究支援申請書



SGH No.	研究代表者	研究テーマ
---------	-------	-------

【人的支援】

優先順位	調査先 (所属先や部署まで具体的に記入)	内容 (どのようなことを調査したいのか・どのような助言をもらいたいのか)
1		
2		

【交通費支援】 現在予定している範囲で書いてください。ただしこれはあくまでも予算立てのための申請であり、実際の交通費申請は改めて行ってもらいます。

また、記入したものの全てが支援の対象になるとは限りません。SGH 委員会で検討し、支援可能であると判断したものについて支援します。

優先順位	行き先 (だいたいがかまいません)	交通費 (だいたいがかまいません)	人数	総額 (だいたいがかまいません)
1		円	名	円
2		円	名	円
		円	名	円
		円	名	円

⑤ 「研究経過のメタ認知力\*」（研究経過の分析を客観的に判断する力）の自己評価：

項目 1 および 2 への記述をもとに、該当する grade に○をつけ、自己評価してください。

0	以下のいずれにも達していない
1	研究経過の分析が不十分である。 そのような研究経過に至った経緯の要因は述べられているが、不明確である。
2	研究経過を分析することができている。 そのような研究経過に至った経緯の要因が明確に述べられている。
3	研究経過を客観的に分析することができている。 そのような研究経過に至った経緯の要因を、具体的な根拠に基づき明確に述べられている。

\*メタ認知力：自分の行動や考え方などを別の立場から見えて認識する能力のこと。ここでは、課題研究における活動を客観的に捉え自己評価した上で、制御・コントロールする能力について考える。メタ認知力を向上させることで、自覚→考え→行動するというプロセスを成熟させることができる。

3. 「研究のゴール」の再設定

実際に研究を進める中で、計画通りに進まなかったり、思わぬ結果により展開が変わってしまったりするなど、研究計画時のゴールの達成が難しいこともあるかと思えます。研究論文提出までの研究期間は約2ヶ月半です。この期間で達成可能な現実的な研究のゴールを見直し、考えたことを記入してください。ただし5年生までについては、今後も継続して研究する時間があることを考え、途中のゴールを想定してもよい。  
(研究計画時のゴールと変更がない場合は、計画時に設定したゴールについて再度、明確に記してください。)

--	--

4. 今後の研究スケジュール

研究レポート提出を見通して、残りの研究期間のスケジュールを具体的に示してください。

期間	調査・研究項目	何を明らかにするのか
10月下旬		
11月上旬		
11月中旬		
11月下旬		
12月上旬		
12月中旬		
12月下旬		
1月7日	研究論文 提出	

5. 「研究遂行力」のアセスメント（評価）

①項目 3 および 4 への記述をもとに、該当する grade に○をつけ、自己評価しましょう。

【研究のゴール】

0	以下のいずれにも達していない。
1	研究のゴールを見直していない。
2	研究のゴールを見直し、達成可能な範囲で再設定している。
3	研究のゴールが見直され、高いレベルでの研究ゴールが具体的に示されている。

【今後の研究スケジュール】

0	以下のいずれにも達していない。
1	今後の研究の進め方について、なすべきことが不十分もしくは不明確である。
2	今後の研究の進め方について、ゴール達成のためになすべきことが示されている。
3	今後の研究の進め方について、ゴール達成のためになすべきことが具体的に示されている。

【研究成果の発信】

0	以下のいずれにも達していない。
1	研究成果の発信（発信するための準備）が不十分・不明確である。
2	研究成果の発信（発信するための準備）が部分的になされている。
3	研究成果の発信（発信するための準備）が体系立てて進められている。

②上記①のように判断した理由を具体的に述べてください。

--	--

6. 「組織力」「対話力」のアセスメント（評価）：外部連携の度合い

①これまでの研究活動において、外部の方・組織からどのような支援・助言を受けましたか。あるいは、収集した情報をどの程度生かして再構築できましたか。どのような形で研究に役立てられましたか。以下に記入してください。

日付	連携先	連携による成果（研究のどこに役立てられるのか具体的に記入）

(行が足りない場合は、挿入してください)

②これまでの外部連携について、上記①への記述をもとに、該当する grade に○をつけ、自己評価しましょう。

0	以下のいずれにも達していない
1	外部連携がほとんどとれていないか、適切な情報をほとんど収集できていない。 研究上、外部連携や調査による成果をほとんど活かしていない。
2	必要に応じた外部連携がある程度とれている。もしくは適切な情報を収集している。 研究上、外部連携や調査による成果を限定的に活かしている。
3	研究目的に沿って、必要に応じた外部連携が十分にとれている。もしくは適切な情報を収集し、自分たちで再構築して新たな知見を得ている。 研究上、外部連携や調査による成果を効果的・具体的に活かしている。

③上記②のように判断した理由を具体的に述べてください。

--	--

【提出について】

(研究経過報告書の項目は以上です)

①研究経過報告書の全ての項目を確認し、該当する項目全てに記入をする。

②特に記述で書くべき項目は、調査した内容、明らかになったこと、考察などを十分に記述すること。記述の量や内容も評価の対象となります。

③記入し終えた研究経過報告書はファイル名を「研究経過報告書\_SGH No.(研究代表者)」に変更する。

例) SGH No.99 研究代表者: 水本 肇 の場合…ファイル名は「研究経過報告書\_99 水本」

④SGH 委員会のメールアドレス(sgh@iguiss.jp)にメール添付にて提出する。

**提出締切：2019年10月30日(水)**



2019 年度 ISS チャレンジ SGH 部門 研究経過報告書 評価シート

SGH No. \_\_\_\_\_ 研究代表者: \_\_\_\_\_ 指導教員: \_\_\_\_\_

研究テーマ: \_\_\_\_\_  
 研究経過報告書を以下のループブックにしたがって評価してください。

観点①：研究経過の分析

『1. 研究経過』と『2. 研究経過の分析』の記述から評価してください。

0	以下のいずれにも達していない
1	i 研究経過の分析が不十分である。 ii そのような研究経過に至った経緯の要因は述べられているが、不明確である。
2	i 研究経過を分析することができている。 ii そのような研究経過に至った経緯の要因が明確に述べられている。
3	i 研究経過を客観的に分析することができている。 ii そのような研究経過に至った経緯の要因が、具体的な根拠に基づき明確に述べられている。

1該当するものに○を記入

観点②：分析力・考察力

『1. 研究経過—③』と『2. 研究経過の分析—③』の記述から評価してください。

0	以下のいずれにも達していない
1	i 研究課題について、考察および分析が不十分である。 ii 考察は適切な情報や調査結果から述べられているが、不明確である。
2	i 研究課題について、考察し分析することができている。 ii 考察は適切な情報や調査結果から、明確に述べられている。
3	i 研究課題について、客観的に考察し分析することができている。 ii 考察は適切な情報や調査結果から、具体的な根拠に基づき明確に述べられている。

観点③：研究遂行力

『3. 研究のゴール』の「再設定」と『4. 今後の研究スケジュール』、『5. 「研究遂行力」のアセスメント』から評価してください。

0	以下のいずれにも達していない
1	i 達成可能な研究のゴールが再設定されていない。 ii 今後の研究の進め方について、なすべきことが不十分もしくは不明確である。 iii 研究成果の発信（発信するための準備）が不十分・不明確である。
2	i 研究のゴールを見直し、達成可能な範囲で再設定している。 ii 今後の研究の進め方について、ゴール達成のためになすべきことが示されている。 iii 研究成果の発信（発信するための準備）が部分的に示されている。
3	i 研究のゴールが見直しされ、高いレベルでの研究ゴールが具体的に示されている。 ii 今後の研究の進め方について、ゴール達成のためになすべきことが、具体的に示されている。 iii 研究成果の発信（発信するための準備）が体系立てて進められている。

観点④：組織力・対話力

『6. 組織力・対話力』の「アセスメント」から評価してください。

0	以下のいずれにも達していない
1	i 外部連携がほとんどとれていないが、適切な情報をほとんど収集できていない。 ii 研究上、外部連携や調査による成果をほとんど活かしていない。
2	i 必要に応じて外部連携がある程度とれている。もしくは適切な情報を収集している。 ii 研究上、外部連携や調査による成果を限定的に活かしている。
3	i 研究目的に沿って、必要に応じて外部連携が十分にとれている。もしくは適切な情報を収集し、自分たちで再構築して新たな知見を得ている。 ii 研究上、外部連携や調査による成果を効果的・具体的に活かしている。

(裏面に続く)

観点⑤：調査力

研究経過報告書の記述全体から総合的に評価してください。

0	以下のいずれにも達していない
1	i 研究課題について計画的に調査が進められていない。 ii 研究に関する情報を収集しているが、研究課題との関連性が常にあるわけではない。
2	i 研究課題について計画的に調査が進められている。 ii 研究課題に関連する情報を収集し、活用している。
3	i 研究課題について効果的な計画的に進められている。 ii 研究課題に関連する適切な情報を多角的に収集し、活用している。

【評価の合計】

各観点の点数と合計点を記入してください。

観点①	観点②	観点③	観点④	観点⑤	合計
					/15

【評価者コメント】

※評価結果は生徒にフィードバックします。3 学期初めの研究論文提出に向けた効果的なアドバイスを含め、コメントをお願いします。

評価者氏名: \_\_\_\_\_

以下の留意事項に従って、研究論文を作成してください。

- (1) 本文の字数として、日本語の場合は 8000 字、英語の場合は 4000 語程度を目安にまとめる。  
 なお、添付資料や図表の中の文字は本文字数とは別とする。  
 参考：PP は日本語 7000 字、英語 3500 語

- (2) 構成は以下の通りとする。

- ① タイトル
- ② 研究者氏名 (漢字・アルファベット)
- ③ 要旨…日本語の場合は 600 字、英語の場合は 300 語以内の要旨とする。
- ④ 英文要旨 (Abstract) …300 語以内
- ⑤ 本文…章立てはテンプレートに沿う形で、各自設定する。  
 ※本文が英語の場合は、600 字以内の日本語要旨を作成する
- 序論 (先行研究・研究目的・研究方法)
- 本論 (研究結果・考察)
- 結論
- ⑥ 謝辞
- ⑦ 脚注
- ⑧ 参考文献 (reference) …書き方についてはフィールドノートを参照

- (3) 図表・写真・資料についてはそれぞれの種類ごとに通し番号 (図 1, 図 2, 表 1, 表 2 …) をつけ、本文中の適切な場所に挿入し言及すること。
- (4) 原稿のテンプレートは Office365 のメールを使って研究代表者に配布します。
- (5) 論文の提出締め切りは 2020 年 1 月 14 日 (火) です。  
 SGH 委員会メールアドレス [sghtguiss.jp](mailto:sghtguiss.jp) に提出してください。

- 論文と自己評価シートを添付して送ること。
- ファイル名は、それぞれ「論文\_99 水本」・「自己評価 99 水本」のように変更する。
- メール の 姓 名 (subject) は「No.99 水本の論文と自己評価です」とする。
- 2020 年 1 月 14 日 (火) 放課後に E201 にて代表者ミーティングを行う予定です。  
 研究ポスターの作成とフィールドノートの提出についてお話しします。

評価者	
SGHNO.	
評価論文タイトル	

### 評価結果

各規準の点数を記入して、合計点を算出してください。  
 評価全体を通してのコメントをお願いします。

規準 A	規準 B	規準 C	規準 D	規準 E	規準 F	規準 G	合計点
							/21
コメント							

### 規準 A：要旨における論旨の整合性

研究課題、研究方法、結論の 3 つの要素が日本語・英語ともに定められた字数で作成されているか。

○印	到達度	レベルの説明
	0	以下のどのレベルにも達していない。
	1	定められた字数を大幅に超えている。もしくは 3 つの要素のいずれかが欠けている。
	2	3 つの要素を含んでいるが、明確に整然と述べられていない。
	3	3 つの要素がすべて明確に整然と述べられている。

【メモ】

### 規準 B：序論における研究についての意義づけの明確さ・適切さ

問題の所在 (先行研究のレビュー)、研究課題の提示、研究方法が明確に述べられているかどうか、研究やプロジェクトの社会的意義・学術的意義を整理して把握できているか。

○印	到達度	レベルの説明
	0	以下のどのレベルにも達していない。
	1	研究課題を提示するための先行研究のレビューが十分にされておらず、提示した研究課題や研究方法が適切なものであるかどうか、十分に述べられていない。
	2	先行研究をふまえて研究課題や研究方法が述べられているが、研究の社会的意義・学術的意義が整理されておらず、研究のオリジナリティが不明確である。
	3	適切な先行研究を十分にふまえた上で、研究の社会的意義・学術的意義が整理されており、研究のオリジナリティが明確に示される形で適切な研究課題や研究方法が述べられている。

【メモ】

**規準 C：調査方法の妥当性および調査内容の充実度（本論の記述から評価）**

適切な先行研究・先行調査・先行事業を十分に確認しているかどうか。  
研究課題に応じた適切な調査を立案し、それによって効果的な調査ができたかどうか。  
適切な研究方法に基づき、課題に対して必要かつ十分な情報を多角的に収集・記録できたかどうか。

○印	到達度	レベルの説明
	0	以下のどのレベルにも達していない。
	1	研究課題に対して調査計画を立案しているが、課題に関する適切な情報を収集・記録しているとは言い難い。
	2	研究課題に対して適切な調査計画を立案し、課題に関する適切な情報を収集・記録している。
	3	研究課題に対して適切な調査計画を立案し、課題に関する必要かつ十分な情報を多角的に収集・記録し、効果的な調査が行われている。

【メモ】

**規準 D：考察の適切さ・分析の妥当性と明確さ（本論の記述から評価）**

客観的に考察し分析できたかどうか。  
考察・分析は適切な情報や調査結果から、具体的な根拠に基づき明確に述べられているかどうか。

○印	到達度	レベルの説明
	0	以下のどのレベルにも達していない。
	1	考察・分析はなされているが、具体的な根拠に基づいたものになっていない。
	2	考察・分析は、適切な情報や調査結果から、具体的な根拠に基づき述べられている。
	3	考察・分析は、適切な情報や調査結果から、具体的な根拠に基づき明確かつ客観的に述べられている。

【メモ】

**規準 E：結論の妥当性・説得力**

研究課題に対して適切な結論が、具体的・客観的な考察・分析を経て述べられているかどうか。

○印	到達度	レベルの説明
	0	以下のどのレベルにも達していない。
	1	研究課題に対応する結論が、十分に述べられておらず不明確である。
	2	研究課題に対応する結論が、考察・分析を経て述べられている。
	3	研究課題に対応する適切な結論が、具体的かつ客観的な考察・分析を経て述べられている。

【メモ】

**規準 F：研究による課題理解の深化（全体の記述から評価）**

研究やプロジェクトを進める過程において、批判的な姿勢で研究内容や実践内容を見直すことを繰り返し、課題に関する理解が深まっていったかどうか。

○印	到達度	レベルの説明
	0	以下のどのレベルにも達していない。
	1	研究過程において、批判的な姿勢で研究・実践内容を繰り返し見直し、課題に対する理解が深まったとみられる記述はみられない。
	2	研究過程において、批判的な姿勢で研究・実践内容を繰り返し見直し、課題に対する理解が深まったとみられる記述がみられる。
	3	研究過程において、批判的な姿勢で研究・実践内容を繰り返し見直し、課題に対する理解が深まったとみられる明確な記述が複数みられる。

【メモ】

**規準 G：論文の体裁・適切な言葉の使用**

執筆者が示した体裁を守って論文の作成ができているかどうか。  
論文に相応しい文体で記述できているかどうか。

注意※規準 G において著しくその規準を満たさないもの、規準を満たさないものについては、研究論文の体裁をなしていないと判断し、評価対象から外れる。

○印	到達度	レベルの説明
	0	論文の体裁が許容できるものではない、もしくは論文が定められた字数を大幅にこえている。
	1	執筆者が示した体裁の基準を満たしておらず、文体も論文として相応しくない。
	2	執筆者が示した体裁は守られているが、論文に相応しい文体とは言い難い記述がみられる。
	3	執筆者が示した体裁が守られており、かつ論文に相応しい文体で記述されている。

【メモ】

2019年度 ISS チャレンジ (SGH 部門) 自己評価シート



SGH No.	
論文タイトル	
研究代表者	年 組
メンバー	年 組
	年 組
	年 組
	年 組
指導教員	

(1) 「研究課題に対する考察の深化」のアセスメント (評価)

①ISS チャレンジで進めた研究の研究目的を記入してください。

--

②研究課題に対する考え・理解の深まりについて、該当する grade に○をつけ、自己評価しましょう。

0	以下のいずれにも達していない。
1	研究課題に対する考えは、研究する前と比較してほとんど深まらなかった。
2	研究課題に対する考えは、研究する前と比較してある程度深まった。
3	研究課題に対する考えは、研究する前と比較して十分に深まった。

③設定した研究課題に対してどのような分析・考察ができましたか (研究課題に対する考え方はどのように深まりましたか)。研究計画時に選択した大テーマとの関連もふまえながら記入してください。

選択した大テーマ	

(2) 「研究遂行力」のアセスメント (評価)

①研究活動において得られた成果の発信について、該当する grade に○をつけ、自己評価しましょう。

0	以下のいずれにも達していない。
1	研究の進行は十分でなく、当初のゴールからは遠い。また成果の発信が不十分・不明確である。
2	研究は進行できたが、当初のゴールには届いていない。成果の発信が部分的になされている。
3	研究はかなり進行し、当初のゴールを概ね達成した。また成果の発信が体系立てて進められている。

②上記①のように判断した理由を具体的に述べてください。

--

(3) 「組織力」(対話力)のアセスメント (評価) : 外部連携の度合い

①研究活動における外部連携について、該当する grade に○をつけ、自己評価しましょう。

0	以下のいずれにも達していない
1	外部連携および知識や情報の再構築がほとんどできなかった。
	研究上、外部連携で得られた成果をほとんど活かできなかった。
2	必要に応じた外部連携および知識・情報の再構築がある程度できた。研究上、外部連携で得られた成果を限定的に活かした。
3	研究目的に沿って、必要に応じた外部連携および知識・情報の再構築が十分にできた。研究上、外部連携で得られた成果を効果的・具体的に活かした。

②上記①のように判断した理由を具体的に述べてください。

--

(4) 「研究経過のメタ認知力」(研究活動の分析を客観的に判断する力)の自己評価

(1)から(3)への記述をもとに、該当する grade に○をつけ、自己評価してください。

0	以下のいずれにも達していない
1	研究活動の分析が不十分である。 そのような研究に至った要因は述べられているが、不明確である。
2	研究活動を分析することができている。 そのような研究に至った要因が明確に述べられている。
3	研究活動を客観的に分析することができている。 そのような研究に至った要因を、具体的な根拠に基づき明確に述べられている。

\*メタ認知力: 自分の行動や考え方を別の立場から見ると認識する能力のこと。ここでは、課題研究における活動を客観的に捉え自己評価した上で、制御・コントロールする能力について考える。メタ認知力を向上させることで、自覚→考え→行動するというプロセスを成熟させることができる。

(5) 研究記録の採録 (フィールドノートの提出) ← 提出は1月になります。準備しておいてください。

(1)から(3)において、自己評価した部分がわかるようにフィールドノートにおける研究記録を採録してください。

【採録の仕方】

①フィールドノートにおいて、評価項目(1)から(3)の内容がわかる部分に付箋を貼ってください。

②付箋にはどの項目について示されているのかわかるように、項目番号を記してください。

研究課題に対する考察・分析→「1」

研究成果の発信→「2」

外部連携の活用→「3」

③採録は各項目が明確にわかる場所を2つ以上5つ以下の範囲で選んでください。

採録箇所合計は6か所から最大15か所となります。

④採録を示したフィールドノートは自己評価シートと共に提出してください。

※提出するフィールドノートは原則1冊としますが、複数冊のノートを使用している場合やグループ内で複数人のノートに採録がおよぶ場合には2冊以上の提出を認めます。その場合には、提出する冊数が多くなりすぎないように可能な限り採録する箇所をまとめてください。



2019 年度 ISS チャレンジ (SGH 部門) ファイルドノート評価シート

SGH No.				メンター教員	
研究代表者					
※下記4項目の評価終了後、点数を下枠に記入してください					
項目	評価Ⅰ	評価Ⅱ	評価Ⅲ	評価Ⅳ	合計
点数					/12

**評価Ⅰ：「研究課題に対する考察の深化」の評価**

研究課題に対する考え方の深まりについて、フィールドノートの抜粋を確認し、該当する grade に○をつけ、評価してください。

0	以下のいずれにも達していない。
1	研究課題に対する考えは、研究する前と比較してほとんど深まっていない。
2	研究課題に対する考えは、研究する前と比較してある程度深まっている。
3	研究課題に対する考えは、研究する前と比較して十分に深まっている。

**評価Ⅱ：「研究遂行力」の評価**

研究の遂行および成果の発信について、自己評価シート②の内容およびフィールドノートの抜粋を確認し、該当する grade に○をつけ、評価してください。

0	以下のいずれにも達していない。
1	研究の進行は十分でなく、当初のゴールからは遠い。また研究成果の発信が不十分・不明確である。
2	研究は進行できたが、当初のゴールには届いていない。また研究成果の発信が部分的になされている。
3	研究はかなり進行し、当初のゴールを概ね達成した。また研究成果の発信が体系立てて進められている。

**評価Ⅲ：「組織力」「対話力」の評価：外部連携の度合い**

研究活動における外部連携について、自己評価シート③の内容およびフィールドノートの抜粋を確認し、該当する grade に○をつけ、評価してください。

0	以下のいずれにも達していない
1	外部連携および知識や情報の再構築がほとんどできていない。
2	研究上、外部連携で得られた成果をほとんど活かしていない。 必要に応じた外部連携および知識や情報の再構築がある程度できている。
3	研究上、外部連携で得られた成果を限定的に活かしている。 研究目的に沿って、必要に応じた外部連携および知識や情報の再構築が十分にできた。 研究上、外部連携で得られた成果を効果的・具体的に活かしている。

(裏面に続く)

**評価Ⅳ：「研究経過のメタ認知力\*」(研究活動の分析を客観的に判断する力)の評価**

自己評価シートへの記述やフィールドノートの抜粋をもとに、該当する grade に○をつけ、評価してください。

0	以下のいずれにも達していない
1	研究活動の分析が不十分である。 そのような研究に至った要因は述べられているが、不明確である。
2	研究活動を分析することができている。 そのような研究に至った要因が明確に述べられている。
3	研究活動を客観的に分析することができている。 そのような研究に至った要因を、具体的な根拠に基づき明確に述べられている。

\*メタ認知力：自分の行動や考え方を別の立場から見ると認識する能力のこと。ここでは、課題研究における活動を客観的に捉え自己評価した上で、制御・コントロールする能力について考える。メタ認知力を向上させることで、自覚→考え→行動するというプロセスを成熟させることができる。



平成 27 年度指定 スーパーグローバルハイスクール  
研究開発実施報告書 第 5 年次 (最終)  
令和 2 年 3 月 27 日発行  
国立大学法人 東京学芸大学附属国際中等教育学校

〒 178-0063 練馬区東大泉 5-22-1  
Tel. 03-5905-1326 / Fax. 03-5905-0317  
<http://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp/>

印刷 有限会社 サンプロセス

